

生殖医療に倫理的限界はあるか？

2012年3月17日(土)

司会・文責：堀越

1. 概要；

- 参加者 17 名を迎えて、生殖医療における倫理的限界について考え、その有無、あるとすればそれはどこにあるのかについて、考え、議論した。

2. 議論；

- 下記に本会の議論の概要を示すが、時間の制約上から考慮すべき論点を網羅し尽くすことはできておらず他にも考慮すべき論点があること、また今回の倫理を考える際の主語を「人類」としたことを申し添えておく。

(0) 議論前の参加者の態度はどうなっているのか？

- 最初に参加者はどう考えているのかを聞いたところ、下記結果であった；

(A) 倫理的限界はある	8名
(B) 倫理的限界はない	5名
(C) 判断できない	4名

(1) 倫理的限界はない？

- 「ない」立場の人に聞いてみた。「何をやっても問題がないなら、もし遺伝子操作技術が進歩し、自由に個人の遺伝子設計が可能な世の中になったら、親の経済状態に応じて遺伝子操作の有無が分かれば、子供の世代に、①遺伝子操作したある特性を持つ群と②持たない群との差が明らかになり、持たない群が差別されたとする。この場合は、遺伝子操作によるある特性を持たない群自身に責任がないのに、不公正な差別を甘受しなくてはならない事態となる。これは親世代にとって倫理的問題と考えないか？」
- 一つの反論としては、次の意見があった。「親世代の経済状態によって遺伝子操作の有無が決定され、ある特性の有無が発生する場合と、経済状態ではなく、元々親世代同士の形質を遺伝的に子供世代が受け継いだ結果である特性の有無が分かれる場合もある。そのときに生じる不公正な差別と何が異なるのか？ 親世代の経済状態により生じるか、元々の遺伝的形質により生じるかである」
- これに対する再反論は、「ただでさえ不公正な差別はあるが、それを助長するとすればそれは問題である」

(2) 倫理的限界はある？

- 「ある」立場の人に聞いてみた。「どこかに限界があるなら、まずは、男女産み分けはどうか？ ある種の生殖(医療)技術ではないのか？」
- これに対して、「男女産み分けまでは問題ない」という意見がある一方で、「男女産み分けでも、(特定地域や中国等)地域により男女比率が著しく偏る事態となる場合があり、そういう場合には倫理的に問題がある」という意見も出た。

(3) 倫理的限界があるなら、どこにあるのか？

- 倫理的限界を考えるに当たり、次の意見が出た。「男女が二人の間だけで制御・操作(例；排卵日管理による通常性交渉)できる行為であれば、良いのではないか」
- しかし、これを深めると、「男女二人だけでできる男女産み分けが良く、他人の手を借りる遺伝子操作が駄目である根拠や論理は何なのか？」という疑問が浮んだ。「どこからどこまでが良く、どこからが駄目なのか？」

(4) 倫理的な善悪を測る基準は何か？

- そういう議論の中で次の意見は魅力的な意見であった。「倫理的限界があるとすれば、それを手段に求めるのではなく、目的で考えたらどうか」
- その意見を受けて、「目的で考えるなら、人類という生物種の多様性を損なわない(減少させない)方向でその操作が行われるのかどうかで判断できないか」という意見が出た。この意見が魅力的であった一つの理由は、「現在一般的に社会的には望まれないと思われている形質に対してでさえも、それを差別し、排除していくのではなく、多様性の中の一つの形質として扱う」ことにあった。

(5) その先の課題と未来の可能性はどうか？

- さらに、次の課題が挙げられた。「多様性の維持」を基準として、ある種の許されても良いと思える行為(例：二人の間で行われる男女産み分け)を良いと認めたとしても、人類は全体の多様性バランスを考えながら個々人が行動できる訳ではないので、多様性(例；男女比率)を維持できるという保証はない。従って、局所最適しかできないという前提に立てば、何らの人為的操作も認めるべきでない」
- さらなる仮定の話として次の可能性も提示された。「情報技術の発展により、全人類がインターネット接続され、子供世代を計画(設計)する際に、希望する特性を入力してデータベース管理する世界が実現したら、特性の多様性をデータベース管理でき、減少傾向がある設定許容値を超えたら受け付けないようなシステムが構築でき、そのシステムは多様性を管理しながらある種の人為的操作を許容可能とするかもしれない」

3. まとめ；

- 今回は難しいテーマであったが、参加者の終始率直かつ冷静な対話姿勢に助けられ、議論を深めることができた。「倫理的な限界を考える際に、手段ではなく目的から考える」という提案はテーマ提起者にとっても新しい視点であった。他にも、「病気とは何か？」などさらに深めたい疑問が提起されたが、次の機会に譲りたい。

以上